

(金のエンジェル賞 小学生中高学年の部)

バイバイ、リンちゃん

小三・鯨岡 愛

わたしは、自てん車。今日、リンちゃんに買ってもらった。

よく晴れた日、とっても気持ちいい。リンちゃんは、すぐわたしにのったよ！

「わーい」っていいながら。

わたしも、とっても楽しかった。だって、リンちゃんがよろこんでいるから。

リンちゃんは、ずっとわたしにのって、ずっとわらった。わたしも、わらった。

次の日、リンちゃんは、わたしにのって、公園にいったよ。ちよつとよごれたけど、へっちゃら！

リンちゃんは、お友だちと、いっぱいあそんだ。

リンちゃんとわたしは、おうちに帰った。おうちにかえって、リンちゃんが、げんかんのドアをしめる前にこう言ったんだ。

「あしたもあそぼうね」

わたしは、とってもうれしかった。すっごくうれしかった。

わたしは、

「うん」

とこたえたよ。わたしもいっしょにあそびたいから。

その日から、リンちゃんは、毎日わたしにのったんだ。

まい日、いろんなことがあった。リンちゃんは、たまに、お友だ

ちとけんかしたときもあったけど、いつも、ちゃんとごめんねした。さいきん、リンちゃんには、わたしが小さくなってきた。でも、リンちゃんは、まだのってる。うれしいな。

月曜日のよく晴れた日。今日は、リンちゃんのおたんじょう日。今日は、家族で、車でおでかけしてった。

わたしは、リンちゃんが帰ってくるのを、ずっとまっていた。そして、リンちゃんとみんながおうちにかえってきた。すると、お父さんが、なにか、大きい物もっている。それは、新しい大きな自走車だった。

次の日、リンちゃんは、大きな自走車にのっていった。次の日も、また次の日も、でも、リンちゃんは、わたしにも、夜、

「おやすみ」

って言ったんだ。わたしは、それが、人生で一ばんうれしかった。だって、わたしのこともまだわすれていなかったから。

リンちゃんが、大きな自走車にのりはじめてから、少しあったある日わたしは、もっと小さい子のおうちに、ひっこすことになった。わたしは、リンちゃんのとこに、ずっといたかった。だから、ものおきのうしろにかくれた。少したって、お父さんとリンちゃん、わたしをとりよってきた。わたしは、ものおきのうしろにかくれているから、大じょうぶ。すると、リンちゃんのおえがきこえてきた。

「本当は、わたしも、小さな自走車とバイバイしたくない」
それをきいたわたしは、リンちゃんもおんなじこと思っている。なんだか、むねがポカポカしてきた。なんだか、とつてもふしぎな気もちだった。そして、わたしの中から、あふれだすように、買ってもらったときから、今までの思い出がわきあがってきた。

わたしは、おもわず、とびだした。

ガタンととびだすときに大きなおとがなって、リンちゃんとお父さんがふりむいた。そして、わたしにかけよった。すると、リンちゃんが言った。

「パパ、本当にバイバイしちゃうの？」

わたしも、とつても、かなしいしきみしかった。

わたしは、すぐに、車にのって、小さな子の家にいった。リンちゃんも、いっしょに。

わたしも、リンちゃんもきみしいけど、バイバイしたんだ。

なんかげつかたつたある日、リンちゃんとはじめてあった日みたいな天気だった。

ひっこしてきた家の小さな子は、その子のお母さんと、わたしにのって、おでかけた。

しばらくいくと、おうだんほうどうでとまった。すると、ききおぼえのあるこえがしたんだ。こえのするほうを見ると、それは、リンちゃんだった。

リンちゃんは、お友だちと、おしゃべりして、わたしには気づいていない。すると、リンちゃんが、こつちをみた。そして、ニコツテ、わらったんだ。

もう、リンちゃんといっしょじゃないけどちつともきみしくない。

リンちゃんが、わたしを、わすれなければ、さみしくないから。

さてと、これからは、この小さいこを、たくさん、わらわせるぞ

ー！



画：松成真理子
